

令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号 119

江戸川区立二之江第二小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差										
学年		第6学年		学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		
年度		国語	算数	合計	年度		国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標					令和12年度の目標									
令和11年度の目標					令和11年度の目標									
令和10年度の目標					令和10年度の目標									
令和9年度の目標					令和9年度の目標									
令和8年度の目標		0	0	0	令和8年度の目標		+2.0	+2.0	+2.0	+2.0	0	0	0	0
令和7年度の結果		-13	-8	-21	令和7年度の結果		-1.8	+1.1	+1.0	-1.7	-4.3	-6.5	-4.1	-6.2
令和6年度の結果		-10	-16	-26	令和6年度の結果		-9.7	-8.1	-4.9	-6.4	-8.4	-4.1	-9.7	-10.5
令和5年度の結果		-14	-10	-24	令和5年度の結果									

年度	令和7年度 成果と課題			令和8年度			
内容				目標		目標達成に向けた取組	
学校全体	<p>【成果】 ○九九の暗唱を2年生以上で一斉に取り組んだことで、計算の力が底上げし、九九の定着度も上がった。 ○算数の校内研で指導法を学び、児童の実態に合わせて自力解決の手立てを考え、適切な仕掛けを実践することが増えた。</p> <p>【課題】 ○既習の内容を基に、解決に向けた「めあて」を決め、組み立てていく過程が、なかなか定着しない。</p>			<p>『学習したことを生かし、問題解決しようとする児童の育成』 ○学習スタンダードに基づいた授業を実践する。 ○児童自身が課題を見つけ、話し合ったり検証したりしながら解決していく問題解決的な学習を実践する。</p>		<p>○週2回（国語1・算数1）の朝学習で、国語は言語や読み問題を主に取り組む。問題文の中のキーワードに印を付ける習慣を身に付けさせ、文章読解力を上げる。算数は、かけ算の反復練習に取り組む。区定着度調査の結果を生かし、未定着の単元に特化した個別的な学びの充実を図る。 ○問題解決に適しためあての設定や、「はかせどん」を意識した問題解決学習の日常化を図る。</p>	
第1学年	<p>【成果】 ○国語科では、家庭学習に毎日音読と漢字練習を続けたことで、拾い読みが減り、書くことへの抵抗感が減った。 ○算数科では、家庭学習に毎日計算練習を続けたことで、加法減法の基本的な計算の定着度が上がった。 校内研で算数に取り組んだ成果もあり、児童アンケートの回答では算数嫌いが減った。</p> <p>【課題】 ○学習している時は覚えていても、すぐに忘れてしまい、定着が難しい児童が減らない。家庭の協力が差がある。</p>			<p>○下敷きを敷く、ミニ定規を使う、机上整理を行うなど、学習環境を整える習慣を付ける。 ○ノートのマスに適切な文字の大きさと正しく書けるようにする。</p>		<p>○加法減法の反復練習に取り組み、すらすらと計算ができるようにする。 ○家庭との連携を強化し、毎日音読、漢字練習、計算練習の習慣化を図る。</p>	
第2学年	<p>【成果】 ○1年生の既習内容を根気強く復習し続けたことで、「わかった」「できた」の経験が増え、子どもの自信にもつながった。</p> <p>【課題】 ○個の能力差が大きいため、個に応じた指導を適切に行う必要がある。</p>			<p>○ノート指導の充実を図り、書く力を高める。漢字を正しく練習するよう促し、習得率を上げる。 ○全児童が、九九を滑らかに唱えられるようにする。</p>		<p>○児童がノートを取りやすいようにマス付きシートを黒板に貼り、板書を行う。 ○漢字の書き順に気を付けて反復練習をし、漢字を書くことに抵抗無く取り組めるようにする。 ○かけ算九九マスターの反復練習に取り組み、ランダムに出題されてもすらすらと言えるようにする。</p>	
第3学年	<p>【成果】 ○定着不十分な子に対し、個別に寄り添った指導を続けたことで、定着度が上がった。 ノート指導に力を入れ、自分なりの考えを尊重する指導を続けたことで、自分の意見を書ける子が増えた。</p> <p>【課題】 ○授業中は理解し、適用問題を解ける子がテストになると点数が取れない。単元全体の理解の定着ができていない。</p>			<p>○区学力調査国語「学力層」において、C層・D層の割合を45%未満にする。(2025年度は50.0%) ○区学力調査算数「学力層」において、C層・D層の割合を45%未満にする。(2025年度は47.9%)</p>		<p>○読書を推進し、週2回の朝読書や読み聞かせ会の充実化を図る。読んだ本の印象に残った場面や感想を振り返りカードに蓄積していきようにする。 ○かけ算九九マスターの反復練習に取り組み、かけ算を使った応用問題に抵抗無く取り組めるようにする。</p>	
第4学年	<p>【成果】 ○マス計算を繰り返し取り組んだことで、意欲向上と基礎学力の定着につながった。 ○新出漢字の学習においては、児童主体の活動が習慣化し、全員の漢字学習熟度が高まった。</p> <p>【課題】 ○授業中に一見理解できた問題でも、類似問題、応用問題になるとできなくなる児童が多い。</p>			<p>○区学力調査国語「学力層」において、C層・D層の割合を45%未満にする。(2025年度は47.4%) ○区学力調査算数「学力層」において、C層・D層の割合を45%未満にする。(2025年度は50.8%)</p>		<p>○区学力定着度調査の結果を受けて個人カルテを作成し、朝学習や補充学習の時間を中心に、個によって異なる課題単元の反復練習に取り組めるようにする。 ○ICTを活用し、キーボード入力による200字程度の文章を書く習慣を取り組めるようにする。 ○C層児童を中心に放課後学習教室「EDOスク」の参加を促し、家庭へ働きかける。</p>	
第5学年	<p>【成果】 ○国語科では、文章を書く活動を多く取り入れた。推敲しやすくようにICTを活用したことで、書く力が高まった。 ○算数科では、区定着度調査や全国学力調査の過去問を活用し、繰り返し個に応じた基礎・基本の定着を図ったことで、A層児童が増えた。</p> <p>【課題】 ○学習意欲の低い児童への仕掛けが不十分だった。D層児童が増えた。</p>			<p>○区学力調査国語「学力層」において、C層・D層の割合を55%未満にする。(2025年度は60.7%) ○区学力調査算数「学力層」において、C層・D層の割合を55%未満にする。(2025年度は60.7%)</p>		<p>○区学力定着度調査の結果を受けて個人カルテを作成し、朝学習や補充学習の時間を中心に、個によって異なる課題単元の反復練習に取り組めるようにする。 ○外部講師をお招きし、「図読法」作業で文章の構造を読み取りながら、問題を解けるようにする。 ○朝学習や家庭学習において、よむYOMU ワークシートを効果的に活用する。</p>	
第6学年	<p>【成果】 ○ICTを活用した学習方法によって、子供たちは自分のペースで学習を進めることができ、個別最適な学びになった。アンケート結果で「楽しく学んでいる」と回答した児童が国語・算数共に上昇した。</p> <p>【課題】 ○低学力層児童の危機感の無さを改善する必要がある。</p>			<p>○区学力調査国語「学力層」において、A層・B層の割合を50%以上にする。(2025年度は44.8%) ○区学力調査算数「学力層」において、A層・B層の割合を50%以上にする。(2025年度は43.3%)</p>		<p>○物語文と説明文の学習スタンダードに則り、教師間で授業を見合って指導力を高める。新出漢字学習においては、漢字ドリルQRコードを活用し、書き順動画を視聴して正しく覚えられるようにする。 ○基礎定着を図るために東京ベーシックドリルや100マス計算を活用し、個に応じた適用問題に取り組めるようにする。 ○C層児童を中心に放課後学習教室「EDOスク」の参加を促し、家庭へ働きかける。</p>	